

子ども学の

ひろば

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム 「変革期の乳幼児教育・保育を考える」 平成25年度 後学期(10月開講) 受講生募集

現職保育者をはじめ保育・幼児教育や子どもにかかわるすべての方々を対象に、豊かな学びを実現するためのカリキュラムを夜間(18:20~19:50)に開講しています(科目等履修生登録)。

【開講科目】

「乳幼児教育・保育政策論Ⅱ」(火・逆井直紀)

「子どもと家族」(水・加藤邦子)

「現代保育課題研究Ⅵ」(木・浜口順子ほか)

「比較保育実践研究Ⅲ」(10/26-28集中・翁麗芳)

「子ども家庭支援相談Ⅱ」(1/4-5集中・安治陽子)

【出願期間】平成25年7月22日(月)~26日(金)

【URL】<http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

【Eメール】nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

【TEL】03-5978-5949 (担当 安治)

お茶大子ども学ブックレットの紹介

お茶の水女子大学ECCELL(乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築)で企画した子ども学シンポジウム、保育フォーラム、特別講義などの記録を少しでも多くの方々と共に共有するためにECCELLが発行している冊子です。今までに2冊が出ており、今後も順次発行します。

Vol.1 第1回お茶大ECCELL子ども学シンポジウム
子育て力の危機と創生

~エンパワーメントの視点から~

Vol.2 第2回お茶大ECCELL子ども学シンポジウム
今、子どもが育つ環境を考えるⅠ

~「ナージャの村」本橋監督をお迎えして~

実費にてお分けいたします。ご希望の方はECCELL事務局nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jpまでお問い合わせください。

本の紹介「ことばと身体「言語の手前」の人類学」 菅原和孝 講談社選書メチエ 2010年

多くの保育者や保育研究者にとって「身体」を考えることあるいは「身体論」はそもそもとても親和的だ。人はからだでしか生きられないことを、こと保育という営みにおいては否応なく知らされているから。

「共在する者たちの所作がたがいにに対して表情をおびているということが、その場に展開される相互行為に内的な一貫性と秩序を与える。」と語り、かのメルロポンティの思考の特徴を一口で言うなら「手前」であること、だという。学生の日常会話や民俗芸能の身体資源の伝承などの事例がたくさん詰まっています、フィールドワークの知に、改めて魅かれる。(K)

絵本の紹介『富士山うたごよみ』 儀万智(著) U.G.サトー(イラスト) 福音館書店 2012年

立春、啓蟄、大暑、秋分、冬至など、中国から伝わった「二十四節気」に従い、見開きが一つの節気を表現、卓抜したアイデアの富士山と、短歌と、やさしい説明の文章で構成されています。以下、夜間授業の受講生からのEメール。

「先程、就活のために本を探しに池袋のJ書店に寄ったのですが、1階の『最新話題本 芸術』のコーナーに『富士山うたごよみ』を発見しました!平積みでした!…用件はそれだけです、すみません(笑)。平積みになっている本を見て、ああ面白かったなあ、よかったなあと(この本を紹介された)授業を思い出しました。そして、ムショーに先生にお伝えしたくなった次第です。」ということで、お薦めです。(K)